

平成20年度

# 千曲市埋蔵文化財調査報告書

2010

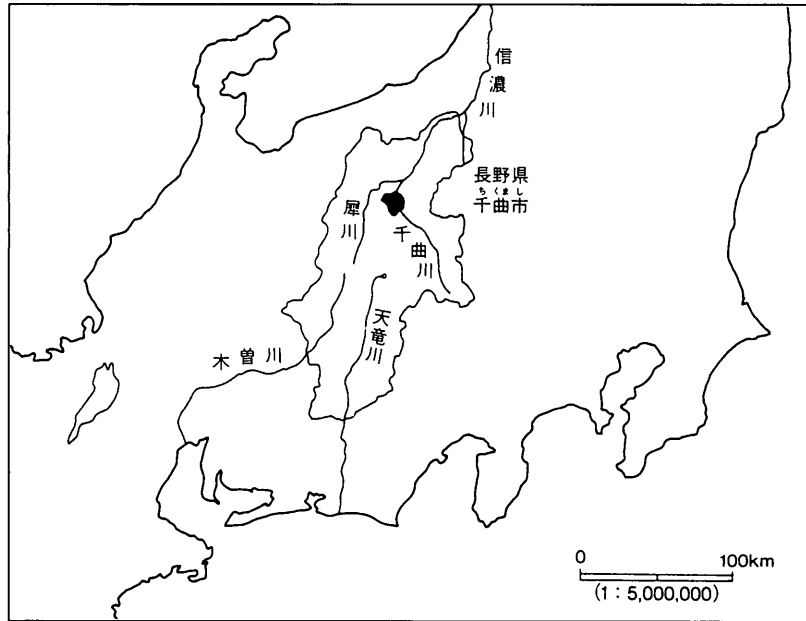
長野県千曲市教育委員会

平成20年度

# 千曲市埋蔵文化財調査報告書

2010

長野県千曲市教育委員会



千曲市の位置

## 例言

- 1 本書は、千曲市教育委員会が平成20年度に実施した埋蔵文化財調査報告書である。
- 2 調査は千曲市教育委員会が主体となって実施し、文化課文化財係が担当した。

千曲市教育委員会事務局

教育長 安西 嗣宜  
 教育部長 塚田 保隆  
 文化課長 小林 修二  
 文化財係長 矢島 宏雄  
 文化財係 小野 紀男  
 寺島 孝典

- 3 松田館跡の執筆については小野が担当し、その他の遺跡の執筆と本書編集は寺島が行った。

- 4 本文中の遺物実測図については1：4縮尺、遺物拓本図については1：3縮尺で掲載している。

- 5 本文中の遺物実測図の表現方法は下記のとおりである。

土 師 器 断面=白抜き  
 黒色処理=ドット  
 須 恵 器 断面=塗り潰し  
 陶 磁 器 断面=ドット

- 6 本文中の図版の座標値及び方位は、平面直角座標系第Ⅷ系で示している。

- 7 各遺跡の調査によって出土した遺物のほか、実測図・写真・測量成果等、調査に係るすべての資料は千曲市教育委員会が保管している。

なお、調査によって得られた資料は各遺跡に付した調査記号を記して保管されている。

## 目次

例言・目次

埋蔵文化財調査概要	1
平成20年度埋蔵文化財調査一覧	2
発掘調査	
(1) 粟佐遺跡群 南沖遺跡	5
(2) 松田館跡	6
(3) 粟佐遺跡群	9
(4) 小島遺跡	10
I 調査の概要	10
II 遺跡の環境	11
III 遺構と遺物	13
IV まとめ	17
(5) 屋代遺跡群 地之目遺跡	22
報告書抄録	

# 埋蔵文化財調査概要

ここ数年の千曲市内における開発行為等に係る埋蔵文化財調査件数の推移を見てみると、合併翌年度の平成16年度に51件を数え、平成17年度は45件、平成18年度が44件、平成19年度45件と横ばい傾向が続いていたが、今年度は29件とこの5年間で最も少ない年となった。

発掘調査の実施件数も平成18年度の10件をピークに以降減少してきており、特に民間開発による発掘調査実施件数の減少が顕著である。ただ、民間開発に伴う調査件数にはそれほどの変化がなく、景気の動向に左右されやすい民間開発において依然活発な動きをしているようにも見受けられるものの、規模の大きな事業を計画する民間企業は徐々になくなってきている。

公共事業の調査件数は前年比46%で半分以下となった。なお、今年度発掘調査を実施した3件の内の2件は前年度からの継続事業での調査である。

## 【各年度の事業件数の推移】

( )内は発掘調査実施件数

年 度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
調査件数	26件 (3件)	51件 (6件)	45件 (6件)	44件 (10件)	45件 (6件)	29件 (4件)
民間開発	5件 (0件)	8件 (1件)	11件 (3件)	19件 (5件)	18件 (2件)	16件 (1件)
公共事業	20件 (3件)	42件 (5件)	32件 (3件)	23件 (5件)	26件 (4件)	12件 (3件)
学術発掘	1件	1件	2件	2件	1件	1件

\*平成15年度は市町村合併（9月1日）以降の件数である

\*調査件数と93条及び94条の提出された件数とは一致しない

平成20年度調査の内訳は発掘調査4件、試掘調査6件、立会調査18件であり、このほか学術発掘調査が1件ある。

平成16年度から継続して実施している千曲建設事務所発注の粟佐遺跡群の発掘調査については、平成21年度に当該事業に係る全ての発掘調査が終了し、平成22年度に調査報告書を作成・刊行する予定である。

小島遺跡は前年度実施した面積を大きく上回る調査となった。検出された溝跡内からは五輪塔・宝篋印塔などの石塔類や石臼が廃棄されたようにまとまった状態で出土した。

屋代遺跡群地之目遺跡では水田跡から灰釉陶器の皿や碗、壺のほか、突帯付短頸壺など多くの遺物が出土した。なお、当該調査については次年度への事業繰越しを行ったため年度を跨ぐ形となり、調査終了は平成21年度中であつたが平成20年度実施の調査として処理している。

試掘調査では、しなの鉄道新駅（千曲駅）建設に伴う柏王遺跡の調査を実施した。戸倉地区での大規模調査になるものと期待されたが遺跡は確認されなかった。

東京電力(株)による八幡地区の送電鉄塔建設に伴う試掘調査では、東中曽根遺跡において埋蔵文化財を確認し、平成21年度に発掘調査を実施する。

平成18年度ごろより増加し始めた集合住宅の建設は今年度においても多く、埋蔵文化財包蔵地外に計画された件数を含めると20棟を超える。

平成20年度 埋蔵文化財調査一覧

番号	遺 跡 名	所在地	調 査 原 因	事 業 者	調 査 期 間	調査面積	備 考
<b>発掘調査</b>							
1	粟佐遺跡群南沖遺跡	粟 佐	民間 = 法事センター新築	アルファライフ(株)	20. 4. 21～20. 5. 23	180㎡	
2	松田館跡	八 幡	学術 = 松田家資料整備事業	千曲市 (文化課)	20. 5. 27～20. 6. 13	120㎡	
					20. 11. 5～20. 12. 18	25㎡	
					21. 2. 27～21. 3. 4	25㎡	
3	粟佐遺跡群	屋 代	公共 = 道路改良	千曲建設事務所	20. 10. 31～20. 11. 10	130㎡	
4	小島遺跡	小 島	公共 = 道路改良	千曲市 (都市計画課)	21. 1. 19～21. 2. 16	330㎡	
5	屋代遺跡群地之目遺跡	屋 代	公共 = 道路改良	千曲市 (建設課)	21. 2. 25～21. 5. 18	950㎡	
<b>試掘調査</b>					調査日	調査内容・所見・備考	
6	柏王遺跡	寂 蒨	公共 = しなの鉄道新駅建設	千曲市 (企画課)	20. 5. 23	Tr5	埋蔵文化財なし
7	八幡遺跡群横まくり遺跡	八 幡	民間 = 駐車場造成	(株)ホームサービス	20. 6. 2	Tr3	-30～50cmで埋蔵文化財確認
8	八幡遺跡群	八 幡	民間 = 送電鉄塔建設	東京電力(株)	20. 12. 10	Tr1	埋蔵文化財なし
9	宮川遺跡	八 幡	民間 = 送電鉄塔建設	東京電力(株)	20. 12. 10	Tr1	埋蔵文化財なし
10	東中曽根遺跡	八 幡	民間 = 送電鉄塔建設	東京電力(株)	20. 12. 11	Tr2	-60cmで埋蔵文化財確認
11	中島遺跡	鋳物師屋	民間 = 店舗建設	(株)宮下商店	20. 12. 15	Tr3	埋蔵文化財なし
<b>立会調査</b>							
12	屋代遺跡群町浦遺跡	雨 宮	民間 = 駐車場造成	山崎製パン(株)	20. 5. 22	掘削なし	
13	仙石遺跡群	羽 尾	公共 = 道路改良	千曲市 (建設課)	20. 6. 10	掘削 - 40cm	埋蔵文化財なし
14	八幡遺跡群横まくり遺跡	八 幡	民間 = 駐車場造成	(株)ホームサービス	20. 6. 13	掘削 - 10cm	(H20.6.2試掘調査実施)
15	新屋遺跡	上 山 田	民間 = 携帯電話基地局建設	イー・モバイル(株)	20. 6. 18	掘削 - 100cm	埋蔵文化財なし
16	更埴条里水田址	森	民間 = 倉庫建設	(有)黒岩建設	20. 8. 18	掘削 - 30cm	埋蔵文化財なし
17	舟山遺跡	鋳物師屋	民間 = 高齢者介護施設建設	メディカルケア(株)	20. 8. 20	掘削 - 130cm	(H20.2.28試掘調査実施)
18	力石条里遺跡群	力 石	民間 = 工場建設	(株)ユニオンプレート	20. 8. 26	掘削 - 200cm	埋蔵文化財なし
19	屋代遺跡群	雨 宮	公共 = 水路改良	千曲建設事務所	20. 10. 17	掘削 - 110cm	埋蔵文化財なし
20	八幡遺跡群	八 幡	公共 = 道路改良	千曲市 (建設課)	20. 11. 26	掘削 - 60cm	埋蔵文化財なし
21	八幡遺跡群横まくり遺跡	八 幡	民間 = 集合住宅建設	個人	20. 11. 28	掘削 - 30cm	埋蔵文化財なし
22	屋代遺跡群地之目遺跡	屋 代	民間 = 集合住宅建設	個人	20. 12. 1	掘削 - 50cm	埋蔵文化財なし
23	粟佐遺跡群南沖遺跡	杭 瀬 下	公共 = 受水槽建設	千曲市 (総務課)	21. 1. 8	掘削 - 50cm	埋蔵文化財なし
24	須坂遺跡	須 坂	公共 = 道路改良	千曲市 (建設課)	21. 1. 14	掘削 - 100cm	埋蔵文化財なし
25	屋代遺跡群	雨 宮	公共 = 道路改良	千曲建設事務所	21. 1. 23	掘削 - 100cm	埋蔵文化財なし
26	屋代遺跡群	雨 宮	公共 = 道路改良	千曲建設事務所	21. 2. 10	掘削 - 100cm	埋蔵文化財なし
27	粟佐遺跡群南沖遺跡	粟 佐	民間 = 集合住宅建設	個人	21. 2. 18	掘削 - 60cm	埋蔵文化財なし
28	釜屋遺跡	上 山 田	公共 = 河川改修	千曲市 (建設課)	21. 3. 11	掘削 - 80cm	埋蔵文化財なし
29	中島遺跡	鋳物師屋	民間 = 店舗建設	(株)宮下商店	21. 3. 19	掘削 - 250cm	(H20.12.15試掘調査実施)

\*表中の番号は、第1図中の調査位置を示した番号と一致する。



第1図 平成20年度埋蔵文化財調査地点位置図 (1:60,000)

# 発掘調査

## (1) 粟佐遺跡群 南沖遺跡

### 調査の概要

1 調査遺跡名	粟佐遺跡群 南沖遺跡 (千曲市遺跡台帳No.28-2 調査記号 MOK4)
2 所在地	千曲市大字粟佐字南沖1598番地 ほか
3 土地所有者	アルファライフ株式会社 代表取締役 池田成彦 ほか
4 調査原因	(仮称) さがみ典礼更埴法事センター新築工事
5 事業者	アルファライフ株式会社 代表取締役 池田成彦
6 調査の内容	発掘調査 調査面積 180㎡
7 調査期間	発掘調査 平成20年4月21日～平成20年5月23日 整理調査 平成20年6月2日～平成20年11月28日
8 調査費用	1,625,000円 (全額事業者負担)
9 調査受託者	千曲市長 近藤清一郎
調査主体者	千曲市教育委員会
調査担当者	寺島孝典
調査参加者	大裕美代子・小林直文・高野貞子・竹之内常秋・中村とみ江・中村文恵 間嶋今朝雄・米沢須美子
10 種別・時期	集落跡 古墳時代～平安時代
11 検出遺構	竪穴住居跡15棟・土坑9基・溝跡6基・ピット25基
12 出土遺物	土器・土製品・灰釉陶器 古墳時代～平安時代 コンテナ6箱
13 調査報告書	「粟佐遺跡群 南沖遺跡4」平成20年11月刊行

### 調査経過と所見

平成20年2月12日に千曲市大字粟佐地籍にセレモニーセンターの建設計画があるとの連絡があった。事業予定地は粟佐遺跡群南沖遺跡の範囲内にあたるため、当該事業に係る埋蔵文化財保護協議を実施した。

平成20年3月17日に文化財保護法第93条に基づく届出書の提出があり、平成20年4月14日、事業者であるアルファライフ(株)代表取締役 池田成彦と千曲市長 近藤清一郎との間で埋蔵文化財発掘調査業務委託契約が締結され、平成20年4月21日より調査を開始した。

事務所部分及びホール部分のいずれも以前建設されていた建物の基礎や攪乱による破壊を受けており、特にホール部分の北側半分は全体が破壊され調査不能となってしまった。よって最終的な調査面積は180㎡となり、平成20年5月23日に現場における作業を終了した。

整理調査は平成20年6月2日より開始し、平成20年11月28日の調査報告書刊行をもって当該事業に係る全ての業務を完了した。

## (2) 松田館跡

### 調査の概要

1 調査遺跡名	まつだやかたあと 松田館跡（千曲市遺跡台帳No.214 調査記号 MDY）
2 所在地	千曲市大字八幡3033番地1 ほか
3 土地所有者	個人
4 調査原因	松田家資料整備事業 長野県宝「松田家住宅主屋」修理工事
5 事業者	千曲市長 近藤清一郎（千曲市教育委員会文化課）
6 調査の内容	発掘調査 170㎡
7 調査期間	発掘調査 平成20年5月27日～平成20年6月13日（主屋南側） 平成20年11月5日～平成20年12月18日（主屋・長屋門・北門） 平成21年2月27日～平成21年3月4日（新座敷）
8 調査費用	1,892,715円
9 調査主体者	千曲市教育委員会
調査指導	吉澤政己 松田家整備委員会委員 笹沢 浩 千曲市文化財保護審議会委員
調査担当者	小野紀男
調査参加者	大裕美代子・鎌倉治雄・高野貞子・武井信哉・中村文恵・間嶋今朝雄 水沢邦久・山岸馨・山崎廣喜・米沢須美子
10 種別・時期	城館跡 中世～近世
11 検出遺構	礎石建物跡1棟・掘立柱建物跡2棟 など
12 出土遺物	土器片・陶磁器片・木製品 中世～近代 コンテナ6箱
13 調査報告書	事業最終年度刊行予定

### 調査経過と所見

松田家資料整備事業に伴う発掘調査を、昨年度に引き続き実施した。本年度は、昨年度の調査で掘立柱建物跡を検出した主屋南側の調査、主屋並びに新座敷雨落ち溝工事部分の調査、長屋門下水道接続工事部分の調査、北門解体に伴う調査を実施した。

#### 【主屋南側の発掘調査】

掘立柱建物跡の規模の確認と、土塁及び堀の状況を確認するための調査を実施した。調査範囲が限られていたため、建物跡の全体像を検出することはできなかったが、今回の調査でも柱穴跡を検出し、この建物跡は少なくとも三間以上の規模を持つ建物跡であることを確認した。

松田館跡東側の堀は、現在の堀よりも3mほど内側から掘り込まれていることを確認した。なお、主屋南側の調査では、土塁の痕跡は確認されなかったが、堀に並行して4基の柱穴を検出した。いずれの柱穴も掘り方が深く、底部には平石が据えられていた。検出地点は館跡のほぼ中央に位置することから、柵等の施設が存在していた可能性が考えられる。



### 【主屋雨落ち溝部分の発掘調査】

調査は、幅1m程度のトレンチ調査であったため、中世に属すると考えられる遺構の検出はできなかった。「小どま」の北側からは一間×二間の建物基礎を検出した。既存の小どまの柱通りと一致するため、小どまから更に北側へ延びる建物があったものと考えられる。また、料理の間の東側からは水洗い場状の遺構を検出した。湧水及び遺存状態が悪く詳細は明らかではないが、四方を板で囲んだ構造をしていたものと考えられる。

### 【長屋門の発掘調査】

松田家住宅主屋への下水道管の接続工事に伴って長屋門部分の発掘調査を実施した。

現在の長屋門の下からは土塁と考えられる盛土の痕跡を確認し、館跡の東側にも土塁が構築されていたことが明らかとなった。

この盛土は黄褐色土を主体とするもので、館跡の西側や南側の土塁で確認されている「I期」に相当する盛土と同じものと考えられる。



長屋門 石段検出状況

また、長屋門の前面からは石段を検出した。この石段は現長屋門の中心より南側で検出し、長屋門の奥まで続いている。調査範囲が限られていたため石段の全容をつかむことはできなかったが、この石段は少なくとも3.6m以上の幅を持つものである。石段の北側は堀跡となっていて、長屋門の北側にも堀が続いていたことが確認できた。

### 【北門の発掘調査】

北門の解体に併せて下層遺構の調査を実施した。

現北門の敷石を撤去したところ、地表下15cmほどで角礫を主体とした石敷きを検出した。礎石と考えられる石もあるため、礎石建ての門が存在していたものと考えられる。



北門 調査状況

### 【新座敷の発掘調査】

新座敷雨落ち溝工事に伴って新座敷の北側と南側の調査を実施した。

北側からは新座敷の中心部分で徳利2点が埋設され、1点が正面を表に向け、もう1点が裏に向けて埋設されていた。

19世紀前半～中頃の瀬戸美濃系の徳利で、地鎮のためのものではないかと考えられる。



新座敷 徳利出土状況

### まとめ

調査は松田家資料整備工事に併せて行ったため、断片的なものであったが新たな知見を得ることができた。今回の調査で注目された点に触れ、まとめとしたい。

なお、松田家資料整備事業は平成21年度以降も引き続き実施されるため、今後の調査の進展により修正が必要となることもある。

松田館跡の現状は、東側を除く三方が土塁で囲まれているものである。また、四方を堀で囲まれていたが、現長屋門より北側の北東角部分にまで堀が存在していたかどうかは明らかでなかった。

調査では、長屋門の部分で土塁と考えられる盛土を検出したため、館跡の東側にも土塁が構築されていたことが明らかとなった。ただし、館跡のほぼ中央となる主屋南東側の地点では土塁の痕跡は確認されなかった。この地点では柵列と考えられる柱穴を検出しているため、この付近に門のような施設が存在していた可能性がある。堀については長屋門の北側に延びており、堀が館跡を全周することが確認された。

松田館跡の建物配置については、寛政3年の絵図や明治時代の絵図と、現在残されている主要な建物がほぼ一致していることが明らかとなっている。

長屋門の調査では、石段の検出により現長屋門から南西に寄ったところに門があった可能性が指摘できる。現長屋門は幕末～明治期の建築と考えられており、幕末以前の長屋門へ続く石段を検出したものと考えられる。寛政3年絵図では、長屋門の位置が表門の通りと一致せず西側に描かれているため、この門の位置は寛政3年絵図との整合性が認められる。

また、主屋の調査では「小どま」から北側の板塀へと続く建物基礎を検出した。明治時代の絵図でも板塀まで建物が描かれており、調査成果と絵図とが符合することが確認できた。

最後に、新座敷で出土した2点の徳利について、長野県埋蔵文化財センター市川隆之調査研究員にご教授を得た。記して感謝申し上げる次第である。

### (3) 粟佐遺跡群

#### 調査の概要

1 調査遺跡名	あわさ いせきぐん 粟佐遺跡群 (千曲市遺跡台帳No.28 調査記号 BWJ7)
2 所在地	千曲市大字屋代字新屋2115番地8 ほか
3 土地所有者	長野県
4 調査原因	平成20年度 地方道路交付金(街路)事業 旧国道線 千曲市 屋代(4)
5 事業者	長野県千曲建設事務所長 塩入邦寿
6 調査の内容	発掘調査 130㎡
7 調査期間	発掘調査 平成20年10月31日～平成20年11月10日 整理調査 平成20年12月1日～平成21年3月10日
8 調査費用	669,000円(全額事業者負担)
9 調査受託者	千曲市長 近藤清一郎
調査主体者	千曲市教育委員会
調査担当者	寺島孝典
調査参加者	大裕美代子・高野貞子・中村文恵・米沢須美子
10 種別・時期	集落跡 平安時代～中世
11 検出遺構	平安時代 溝跡3基・ピット4基 時期不明 ピット3基
12 出土遺物	土器 平安時代～中世 コンテナ1箱
13 調査報告書	平成22年度刊行予定

#### 調査経過と所見

当該事業に伴う埋蔵文化財発掘調査は平成16年度より着手され、本年度が5年目の調査となる。

これまでの調査結果により平安時代から中世にかけての集落遺跡が検出されているが、北に行くにしたがって中世遺構が多くなり、平安時代の遺構は希薄となることが判明している。また、場所によっては遺構の全く検出されない場所もあるため、粟佐遺跡群内でも東端を発掘する当該調査によって、遺跡範囲の把握、あるいは当時の地形等の状況を入手できている意義は大きいものと言える。

今年度の調査は昨年度実施した調査箇所北側に位置し、道路西側の約450㎡を保護対象として進めることとなった。

平成20年10月15日、発掘調査業務に係る委託契約を締結し、10月31日から調査を開始したが、ほとんどの地点において過去の構築物などにより既に遺跡は破壊されており、面的な調査を行えたのは一部にとどまり最終的な調査面積は約130㎡となった。

現場における発掘調査作業は平成20年11月10日に終了したが、調査面積減少に伴う調査期間の短縮により調査費用が減少したため、平成20年12月24日に委託費減額の変更契約書を締結した。

整理作業は12月1日に着手し、平成21年3月10日に平成20年度分の業務を完了した。

## (4) 小島遺跡

### I 調査の概要

1 調査遺跡名	おじまいせき 小島遺跡 (千曲市遺跡台帳No206 調査記号 OJM2)
2 所在地	千曲市大字小島2811番地4 ほか
3 土地所有者	千曲市長 近藤清一郎
4 調査原因	都市計画道路3・4・4旧国道線 埴生本線道路改良工事
5 事業者	千曲市長 近藤清一郎 (千曲市建設部都市計画課)
6 調査の内容	発掘調査 330㎡
7 調査期間	発掘調査 平成21年1月19日～平成21年2月16日 整理調査 平成21年2月19日～平成21年3月31日
8 調査費用	1,449,079円
9 調査主体者	千曲市教育委員会
調査担当者	寺島孝典
調査参加者	大裕美代子・高野貞子・竹之内常秋・中村文恵・間嶋今朝雄・米沢須美子
10 種別・時期	集落跡 弥生時代～中世
11 検出遺構	平安時代 不明遺構1基・ピット3基 中世 溝跡5基・土坑3基・井戸跡1基・ピット11基
12 出土遺物	土器・陶磁器・五輪塔・宝篋印塔・石臼 コンテナ5箱

### 1 調査に至る経過

平成19年度からの継続事業であり本年度で2年目の調査となる。

今回の調査は水路埋設部分を調査した平成19年度調査地点をはさむ形で約1,500㎡を調査対象とし、平成21年1月19日から開始した。道路西側約9mの拡幅工事であったが、車両や歩行者等の通行の危険を避けるため、現道に面する部分と民家等に接する部分をそれぞれ1m～2m残したことから調査幅は5m余りとなった。さらに民家や駐車場の出入り口部分の調査が行えなかったため、最終的な調査面積は330㎡に減少した。

幸いにも攪乱等により破壊された箇所は少なく、掘削できたほぼ全面にわたって調査ができ、平成21年2月16日に現場における作業を終了した。

### 2 調査日誌

1月19日(月)	発掘機材搬入。調査開始。	2月12日(木)	3号溝跡調査。内部から五輪塔、石臼、宝篋印塔が多量に出土。
1月21日(水)	1号溝跡調査・集石検出作業。		
2月2日(月)	2号溝跡(河川跡)調査。	2月13日(金)	基準点測量。
2月4日(火)	1号土坑調査。	2月16日(月)	発掘機材撤収。
2月5日(木)	2号～3号土坑調査。不明遺構調査。		本日をもって現場における作業を終了する。
2月10日(火)	4号土坑調査。石組井戸となる。		

## Ⅱ 遺跡の環境

小鳥遺跡は、千曲川の氾濫により形成された自然堤防上に展開する粟佐遺跡群に接する遺跡である。

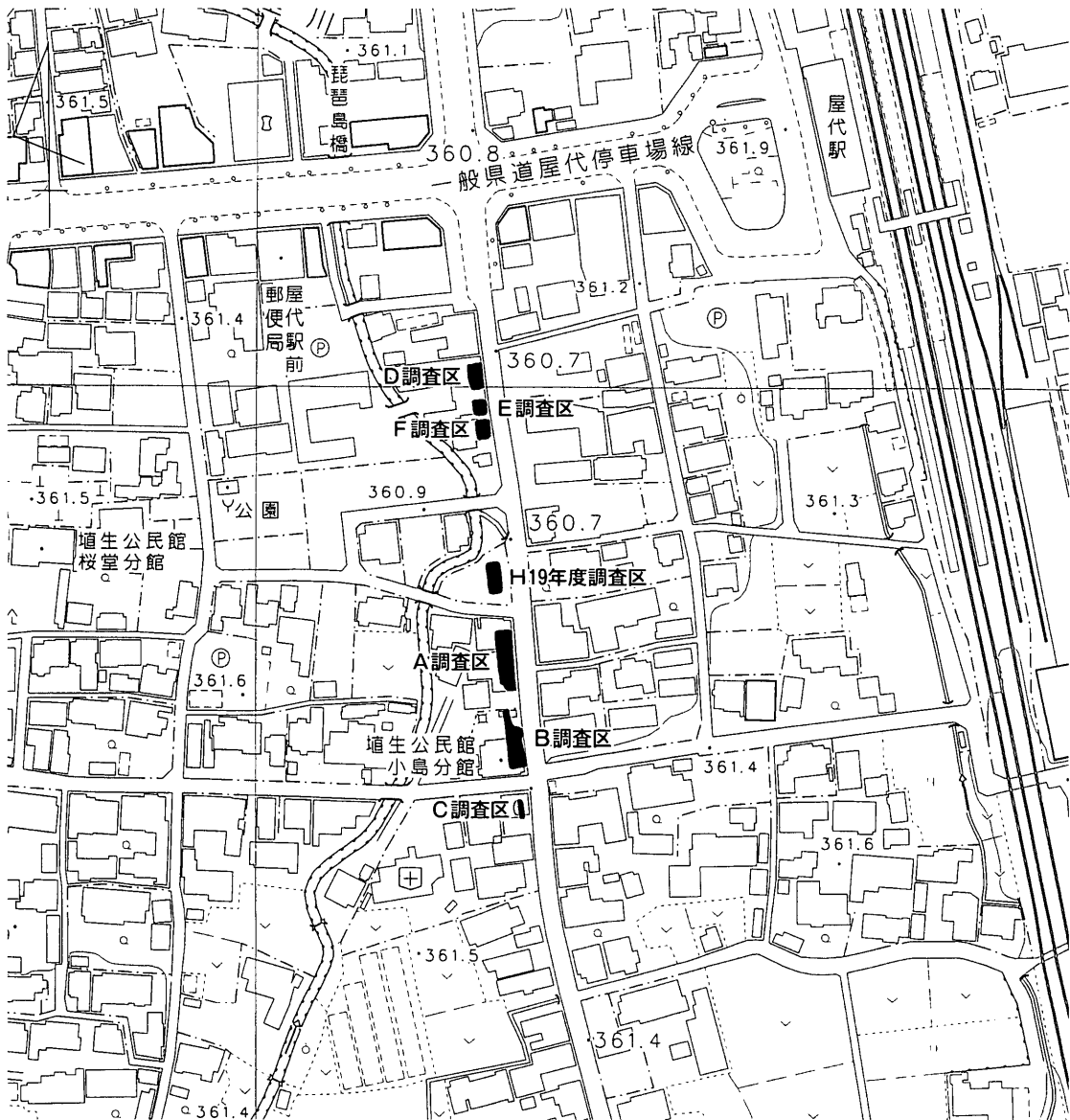
当該地周辺は屋代駅を基点として早くから開発がなされてきた地域であり、また遺跡を南北に走る北国街道の存在もあり、古くから交通の要所として機能していた場所でもある。

昭和63年度に都市計画道路駅前線工事に伴い屋代駅前通り約550㎡の発掘調査が実施されている。

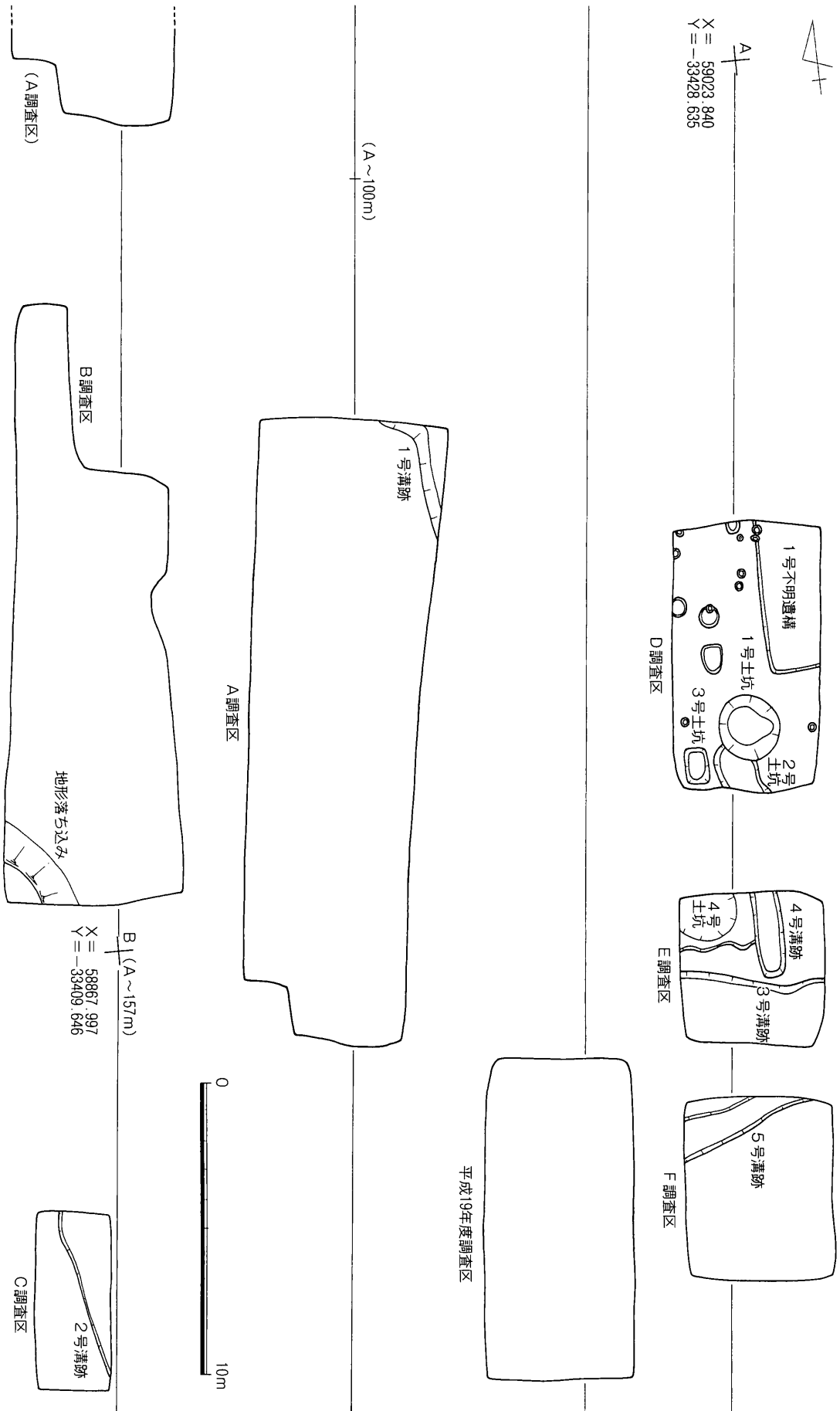
調査では奈良時代から平安時代にかけての竪穴住居跡6棟をはじめ、幅2m～3mを測る古墳時代の方形周溝墓など多くの遺構を検出している。また、弥生時代中期の資料も散見し、遺構には伴ってはいないものの周辺に当該時期の居住域が展開していることも考えられる。

今回の調査地点は北緯36度31分50秒、東経138度07分36秒、海拔360m付近に位置し、昭和63年度調査地点からは南東に200mほど離れた地点となる。

平成19年度の調査は約50㎡と僅かな範囲で、その半分は既に破壊されていたため一部中世の水田跡を検出したに過ぎない。



第2図 調査地点位置図 (1:2,500)



第3図 全体図 (1:200)

### Ⅲ 遺構と遺物

#### 1 基本層序

第4図はA調査区西壁の土層断面図である。

地表下20cmが埋土（Ⅰ層）で、Ⅱ層は暗褐色のシルト質土となる。

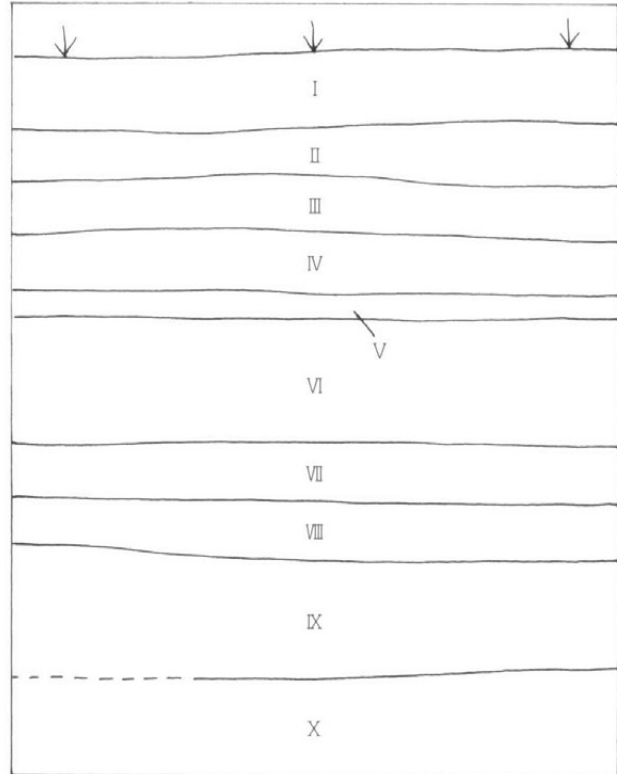
Ⅲ層は明るい灰褐色の粘質の強いシルト質土となり、近世の遺物がわずかに混入している。Ⅳ層はⅢ層と似ているが黄褐色の粘土ブロックが混入する。Ⅴ層は暗い茶褐色のシルト質土を呈する。

Ⅵ層は暗褐色シルト質土で中世の遺物包含層である。厚さは10cm～40cmと場所によってまちまちであるが、調査区の全域にわたって確認できる。

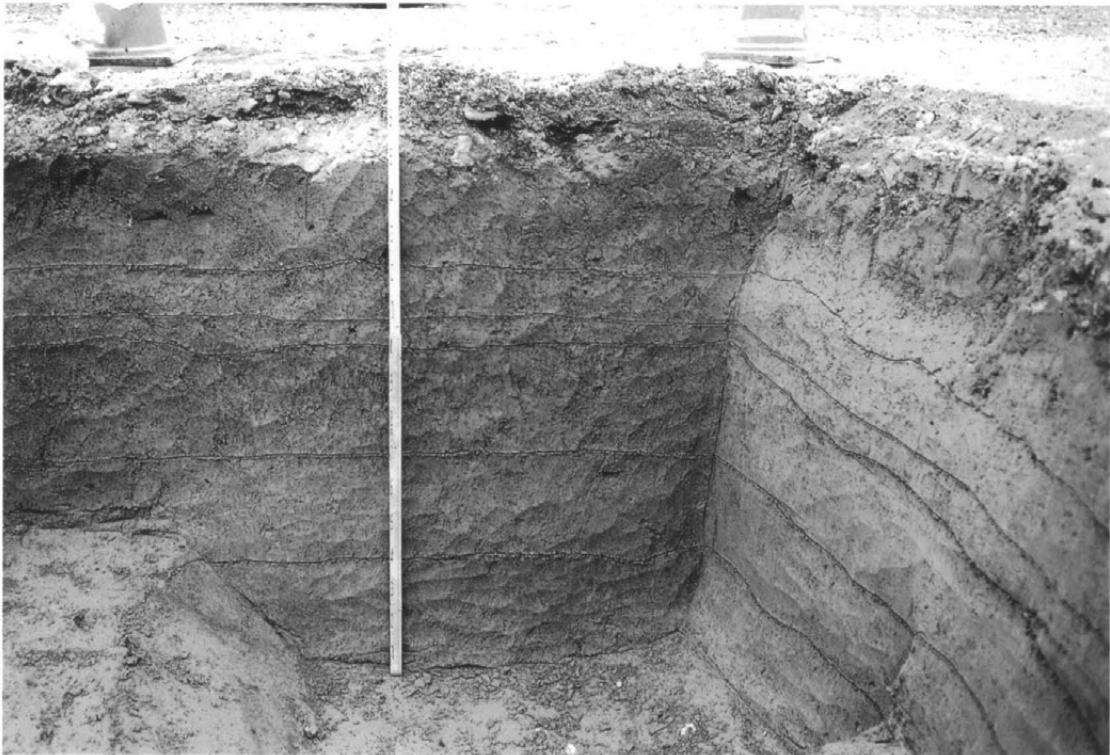
Ⅶ層は暗灰茶褐色シルト質土で、当初中世遺構確認面として設定したが、Ⅵ層とⅦ層の内容が非常に似ているため明確な遺構検出ができなかった。

Ⅷ層は黒茶褐色のシルト質土の平安時代の遺物包含層となるが、場所によって消滅してしまうところもある。

Ⅸ層は暗黄褐色の砂質土で遺構確認面として設定した層である。Ⅹ層は礫層となる。



第4図 土層断面図（1：20）



A調査区西壁土層断面

## 2 溝 跡

### 1号溝跡 (A調査区)

調査区の北東隅で検出された溝跡で、ほとんどが調査区域外にあるため全体の様子は判然としない。遺構確認面から約40cmの深さがあり、底面は平坦となる。覆土上層より人頭大からそれ以上の大きな礫がかたまっている。

出土遺物は、青磁碗（第5図1）、唐津焼碗（第5図2）が図化できたほか内耳鍋片や陶磁器が数点出土している。

1は15世紀前半の輸入青磁で薄緑色となる。2は17世紀後半～18世紀にかけての所産とみられる。

1と内耳鍋片は溝の底面から出土しており、2は上層の礫とともに出土している。

### 2号溝跡 (C調査区)

遺構確認面からの深さは10cm程度で、底面に夥しい量の拳大ほどの河原石が出土している。その様相から人為的な掘り込みによる溝跡ではなく河川などの自然流路を想定する。

平安時代から古墳時代の遺物が混在して出土しているが、図化できるものはなかった。

### 3号溝跡 (E調査区)

調査区を東西に横切る形で検出された。深さは遺構確認面から約40cmを測り、比較的規模の大きい溝跡である。

平安時代から近世に至る遺物が多く出土しているが、ほとんどが小破片であり、図化できたのは瀬戸美濃系の皿（第5図3）と内耳鍋（第5図8）の2点だけである。また、五輪塔、宝篋印塔などの石塔群や石臼が廃棄されたような状態で出土している。

3は18世紀末～19世紀前半の年代をあてることができる。当該遺構が検出できた地点の最上部で調査区壁から出土したもので、その出土状況から当該遺構に直接関係する遺物ではないものと思われる。

### 4号溝跡 (E調査区)

3号溝跡に直行する形で検出された幅1m弱、深さ30cmほどの溝跡で、3号溝跡との重複はない。遺物の出土は僅かで、カワラケ1点（第5図4）が図化できた。中世の遺構と考えられる。

### 5号溝跡 (F調査区)

遺物の出土は少ないが中世の溝跡と考えられ、覆土の状況や遺構の様相から3号溝跡と同一の溝跡と思われる。

## 3 土 坑

### 1号土坑 (D調査区)

直径2mの円形土坑で深さは80cmを測る。2号土坑と重複関係にある。

内部からはカワラケ（第5図5・6）と内耳鍋（第5図9・10）が出土している。

### 2号土坑 (D調査区)

1号土坑と重複関係にあり、南側は調査区域外のため全体を検出できていないが、平面形は楕円形を呈し、深さは約60cmとなる。

平安時代から中世の遺物が出土しているが図化できるものはなかった。

### 3号土坑 (D調査区)

長辺1m30cm、短辺80cmを測る長方形の土坑で深さは20cm前後である。カワラケ1点（第5図7）



が図化できた。平安時代の土器片が多く出土しているが、中世の遺物も混在していることから中世の遺構と考えられる。

#### 4号土坑（E調査区）

周囲に深さ10cm程度の掘り込みが不鮮明な竪穴が伴う。直径2mほどの円形土坑で石組された井戸跡となる。底面までは調査できなかったが深さは1m50cm以上となる。中世の井戸跡と考えられる。

### 4 その他の遺構

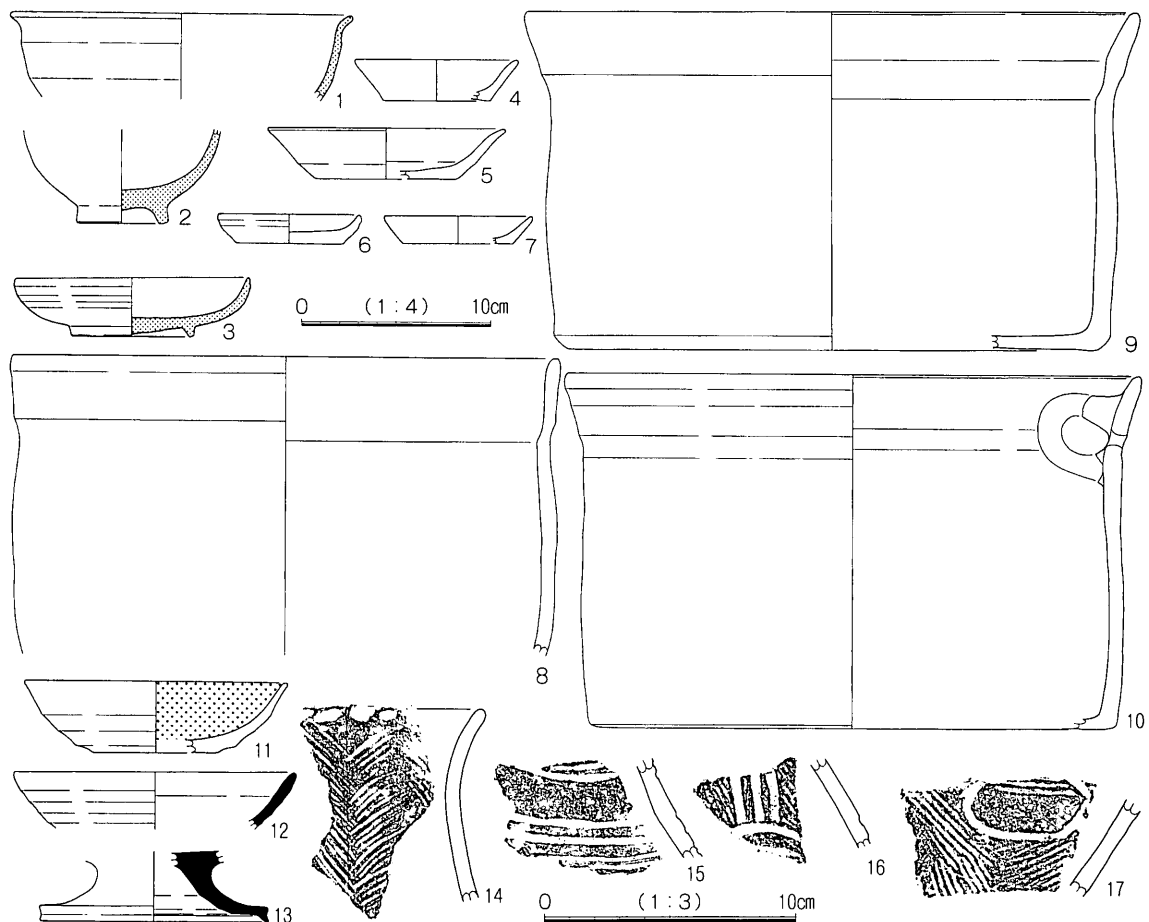
#### 1号不明遺構（D調査区）

平面形は方形を呈し、遺構検出作業中に周囲から平安時代の遺物が出土したため、当初竪穴住居跡として調査を進めたが、床面がはっきりとせずまた凹凸が著しかったことから住居跡という判断はできず不明遺構とした。

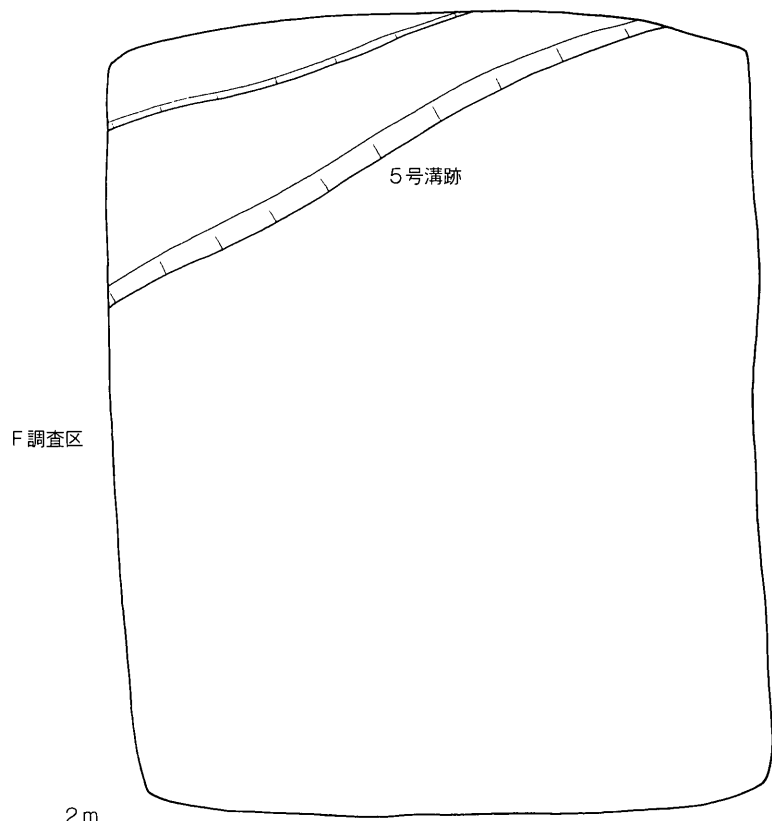
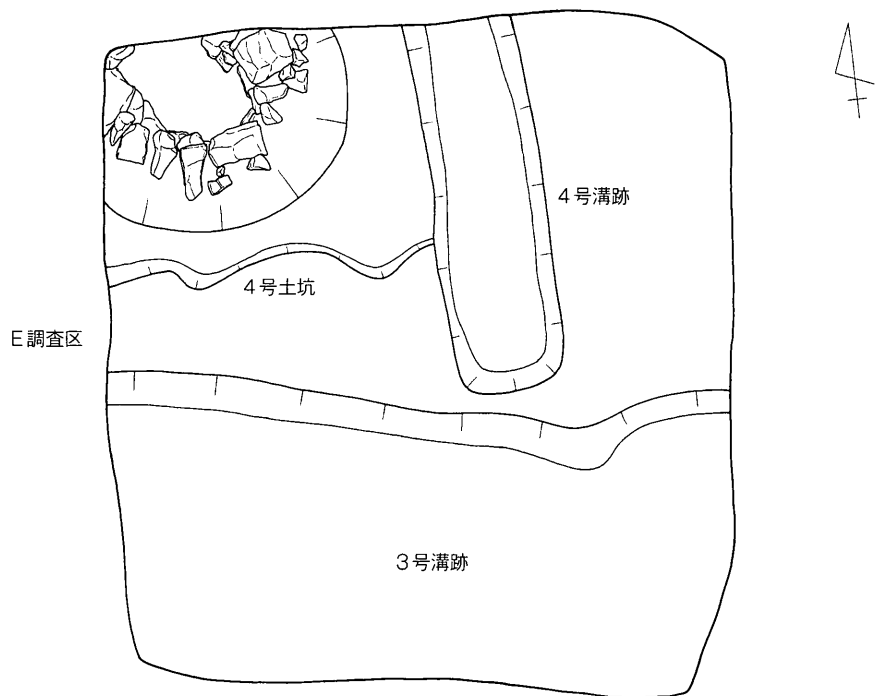
上層部からは平安時代の遺物が、下層部からは古墳時代から弥生時代の遺物が出土している。

上層部の遺物としては内面が黒色処理された坏（第5図11）、須恵器坏（第5図12）、器種は判然としないが須恵器の脚部（第5図13）がある。

下層部の遺物としては弥生時代中期の土器片（第5図14～17）がある。14は甕の口縁部で端部がユビオサエによる波状口縁となり、胴部は5本単位の櫛描羽状文を施文する。15・16は壺の上半部で沈線文を施文し、16は縄文も見られる。17は壺の下半部で細かな条痕文が施されており、楕円形の沈線文が施文されている。

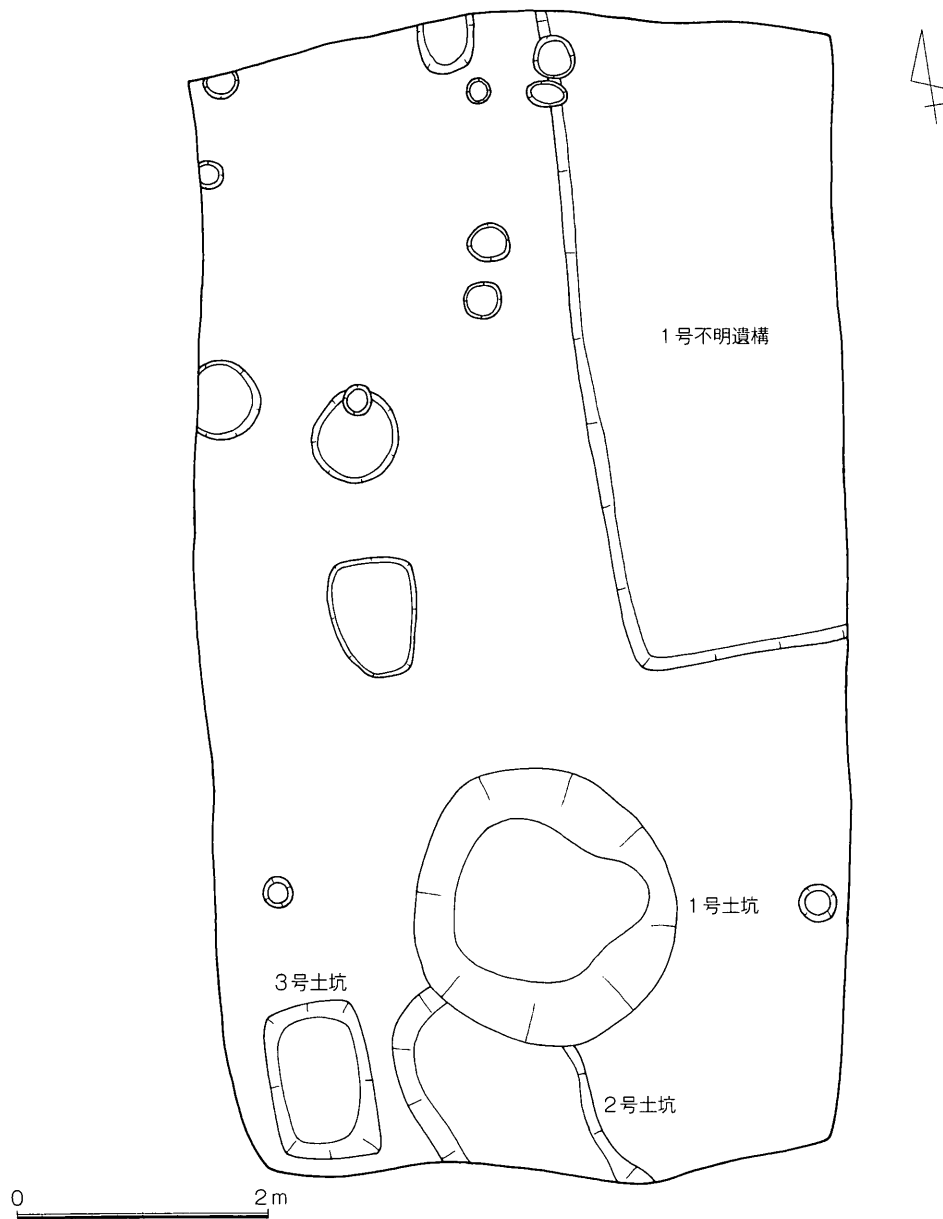


第5図 出土遺物実測図（1～13=1：4 14～17=1：3）



0 2m

第6図 E調査区・F調査区平面図（1：60）



第7図 D調査区平面図（1：60）

#### IV まとめ

今回の調査では中世を中心とする遺構が多く検出された。

小鳥遺跡の北側に展開する粟佐遺跡群の発掘調査でも中世の遺構が確認されていることから、周囲一体に中世の居住域が展開しているものと考えられる。また、遺跡の北東側には有明山から舌状にのびた一重山山頂に屋代城があり、今回出土している遺構や遺物の時代もこれに合致している部分も少なくないため、屋代城に関連する施設の可能性も棄てきれないが、いずれにせよ比較的規模の大きな居住空間が存在していたことを物語っている。

特に、今回の調査で検出された3号溝跡は5号溝跡と同一遺構であると考えられ幅約5mを測る。深さは40cmほどと深いものではないが居住域を区画する堀的役割を十分に果たせる溝である。この他、石組井戸や土坑など多くの遺構を検出したが、民家や駐車場への出入り口を確保しながらの調査区設定となったため調査区が切れ切れの状態となり、検出遺構の性格を十分に把握できなかったこと

は残念であった。

B調査区の南端では地形の落ち込みと見られる段差が確認されている。

当該地点から南西へ20mほど離れた場所からは、一般住宅建築工事の際に古墳時代から平安時代の遺物が出土している。正式な発掘調査等を経て出土した資料ではないものの付近一帯に集落域が展開している可能性を示唆しており、この地形の落ち込みはこの集落域の端になることも考えられる。落ち込み部分からは平安時代の遺物が僅かながら出土している。

最後に、発掘調査遂行に際して多くの方々のご理解とご協力を賜った。また、長野県埋蔵文化財センター市川隆之調査研究員には出土した陶磁器についてご教授いただいた。記して感謝申し上げ本調査のまとめとする。



A調査区 遺構検出作業



D調査区 遺構検出作業



A調査区  
全体写真



A調査区  
1号溝跡



B調査区  
地形落ち込み



C調査区  
2号溝跡



D調査区  
1号不明遺構



D調査区  
全体写真



E調査区  
3号溝跡



E調査区  
3号溝跡遺物  
出土状況



E調査区  
4号土坑  
(石組井戸)

## (5) 屋代遺跡群 地之日遺跡

### 調査の概要

1 調査遺跡名	屋代遺跡群 地之日遺跡 (千曲市遺跡台帳No31-2 調査記号 GNM2)
2 所在地	千曲市大字屋代1008番地6 ほか
3 土地所有者	千曲市長 近藤清一郎
4 調査原因	市道屋代新田線道路改良工事
5 事業者	千曲市長 近藤清一郎 (千曲市建設部建設課)
6 調査の内容	発掘調査 950㎡
7 調査期間	発掘調査 平成21年2月25日～平成21年5月18日
8 調査費用	4,245,640円
9 調査主体者	千曲市教育委員会
調査指導	笹沢 浩 千曲市文化財保護審議会委員 保柳康一 信州大学農学部教授 原 明芳 長野県立歴史館専門主事
調査担当者	寺島孝典
調査参加者	青木好喜・大裕美代子・小林直文・小宮山重信・高野貞子・高野幸男 竹之内常秋・中村文恵・間嶋今朝雄・米沢須美子
10 種別・時期	集落跡 奈良時代 水田跡 平安時代
11 検出遺構	奈良時代 竪穴住居跡1棟 平安時代 畦畔11本・溝跡2基・畝状遺構
12 出土遺物	土器・灰釉陶器・木製品 コンテナ10箱
13 調査報告書	平成23年度刊行予定

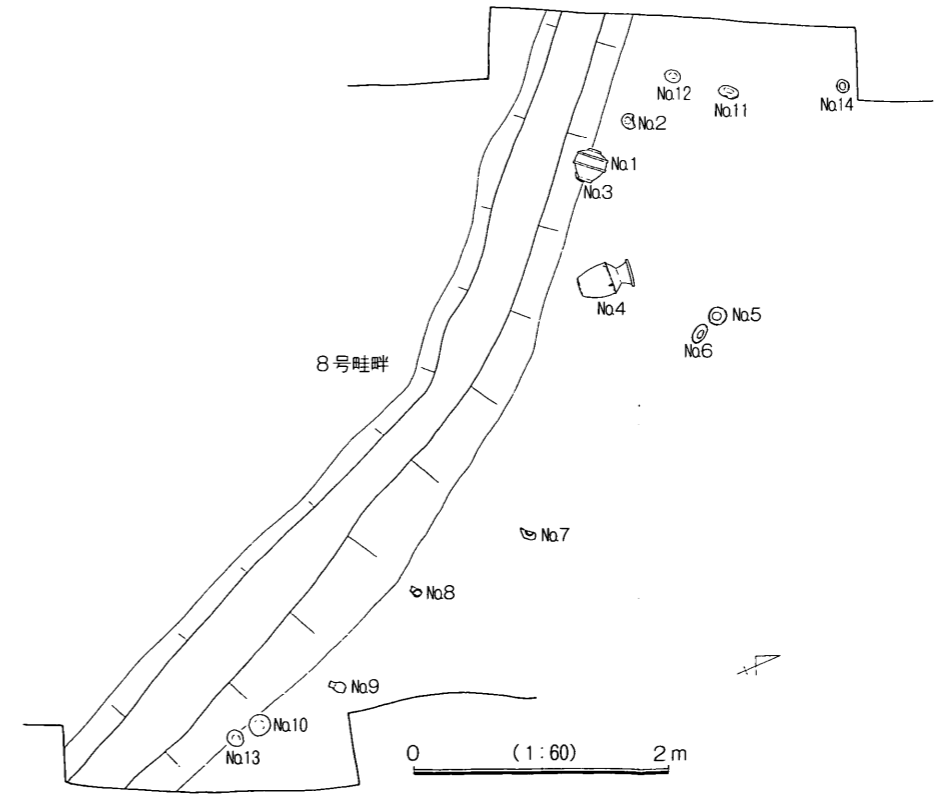
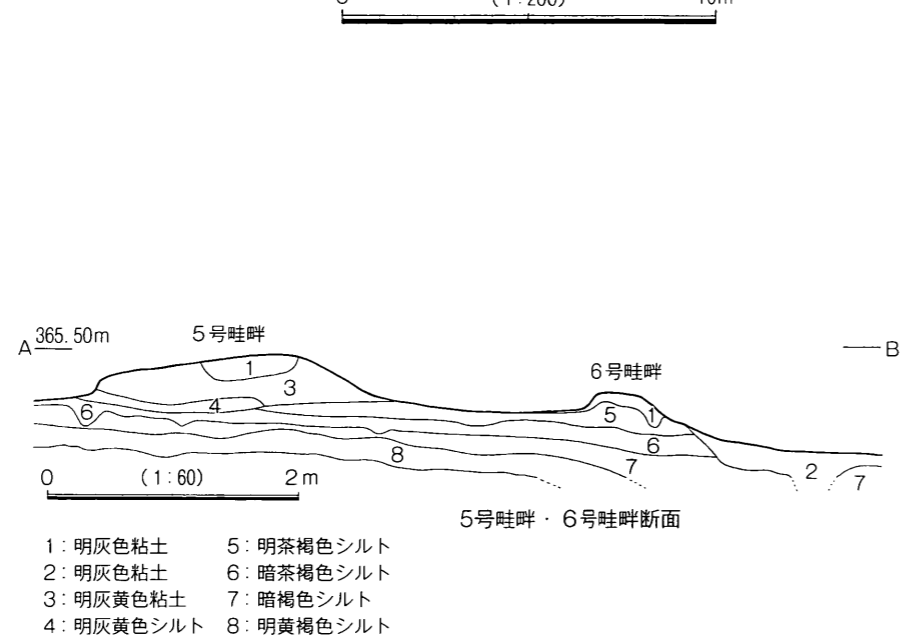
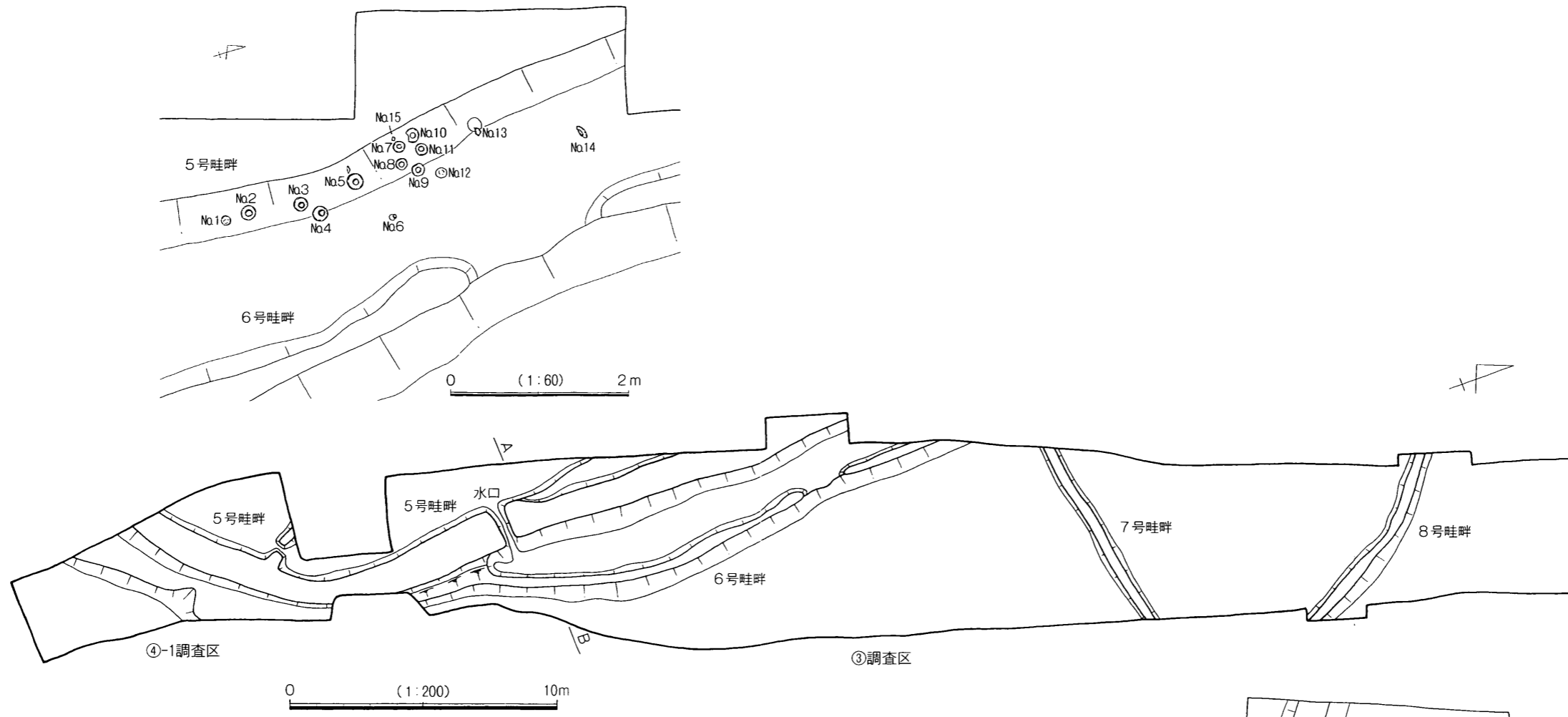
### 調査経過と所見

しなの鉄道屋代高校前駅から国道403号線へ接続する市道屋代新田線の道路改良工事に伴い実施された調査である。平成20年12月2日、文化財保護法第94条に基づく通知の提出があり、発掘調査が必要な旨、回答した。また、調査地の一部がしなの鉄道の近接地となることから、平成21年2月12日にしなの鉄道(株)と文書による近接協議を実施した。

道路は幅10.5m、総延長500mを測り、事業全体の工事面積は約5,200㎡に及ぶものであったが、現道部分や線路近接地など調査不能箇所を除いた約3,900㎡を保護対象とし、今年度はその内の1,400㎡を調査対象として平成21年2月25日に発掘調査を開始した。

年度内での事業完了ができないことから翌年度への事業繰越しが行われ、これに伴って発掘調査も年度を跨ぐ形となり平成21年5月18日に終了した。なお、事業は平成21年度へ継続し、残りの区間の調査を実施する。調査報告書は平成23年度に刊行する予定である。





第8図 ③・④-1調査区平面図(1:200)及び5号畦畔・8号畦畔遺物出土状況(1:60)

屋代遺跡群地之目遺跡は奈良時代の集落跡や平安時代の水田跡が検出される遺跡として周知されており、これまで実施された周辺の調査から地表下2 m50cm～3 mで平安時代の水田跡が確認されている。

調査区幅は約10mあるが、水田面を覆っている砂質土（千曲川洪水砂）が場所によっては厚さ2 m以上にまで及ぶことが予想されたため、調査区壁崩落防止のための法面を設けたことから実質的な調査幅は7 m～5 mとなり、最終的な調査面積は950㎡となった。

調査では平安時代の水田跡に関連する畦畔11本が検出された。このうち2本は一辺約109m区画の条里制水田地割りによる坪境となる畦畔と見られ、残りはその中を細かく区画する畦畔である。

## 5号畦畔

坪境を示す畦畔と見られ幅1.5m～2 mを測る。大規模畦畔では珍しい水口が設けられており、その付近から分岐したもう1本の畦畔（6号畦畔）が沿うように東側に並行して構築されている。

5号畦畔上面と6号畦畔下の水田面との比高差は最大で90cmを測り、さらにこの5号畦畔は南西方向へ弧を描くように湾曲しているなど、更埴条里水田址や屋代遺跡群内で検出される条里制埋没水田跡の畦畔とはかなり様相を異にしている。

5号畦畔の東側法面から6号畦畔にかけて灰釉陶器の小型碗2点（第9図1・2）、皿8点（第9図3～10）、碗3点（第9図11～13）、小型壺1点（第9図15）、長頸壺1点（第9図16）の合計15点がまとまって出土し、この灰釉陶器群から5 mほど南へ離れた場所からは内面が黒色処理された土師器坏（第9図14）が出土している。

皿及び碗は内外面ともに刷毛により釉薬が塗布されており、焼成の際に自然釉が付着したものも見られる。13は口縁部4箇所につき輪花碗となる。14には「在」の墨書がみられる。この他にも灰釉陶器の段皿や耳皿などの破片が5号畦畔付近で出土している。

## 8号畦畔

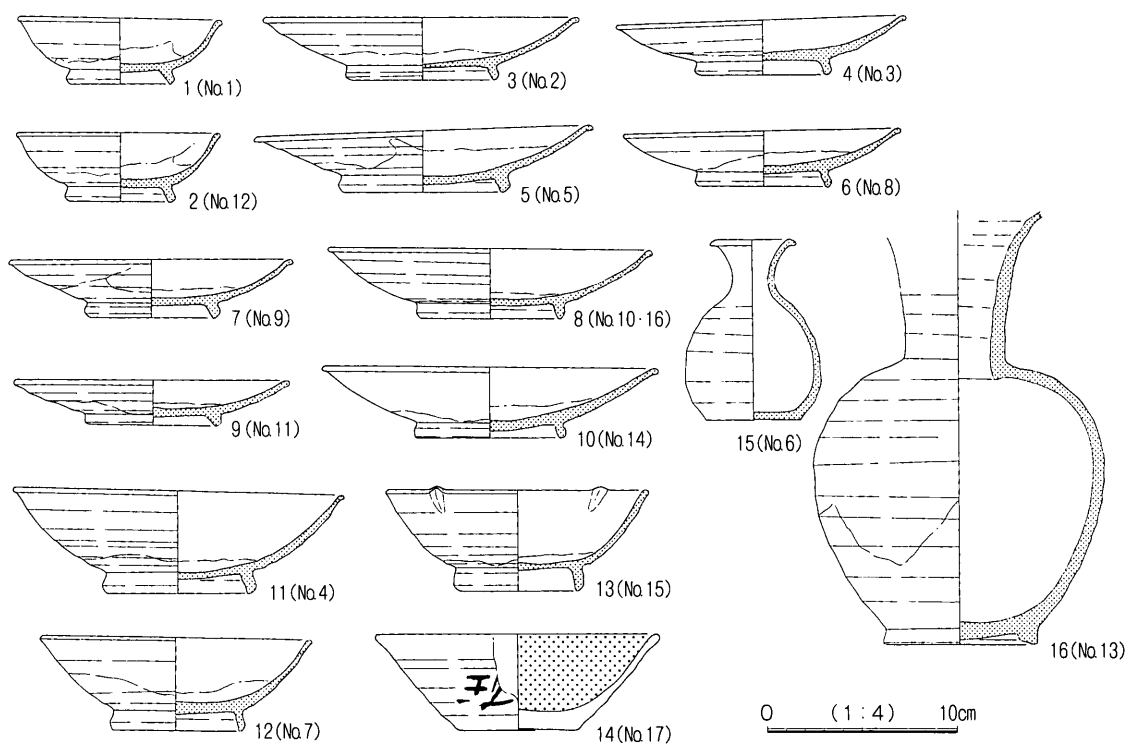
5号畦畔の灰釉陶器群が出土した地点から北東へ約20m離れた位置で検出されている。幅40cm前後を測る一般的な畦畔であるが弧を描いており、直線的に構築されている他の畦畔と比べ異質である。

この8号畦畔を挟んで南側と北側では水田面に約40cmの段差が存在しており、北側の低い部分から畦畔に沿うような形で遺物が出土している。

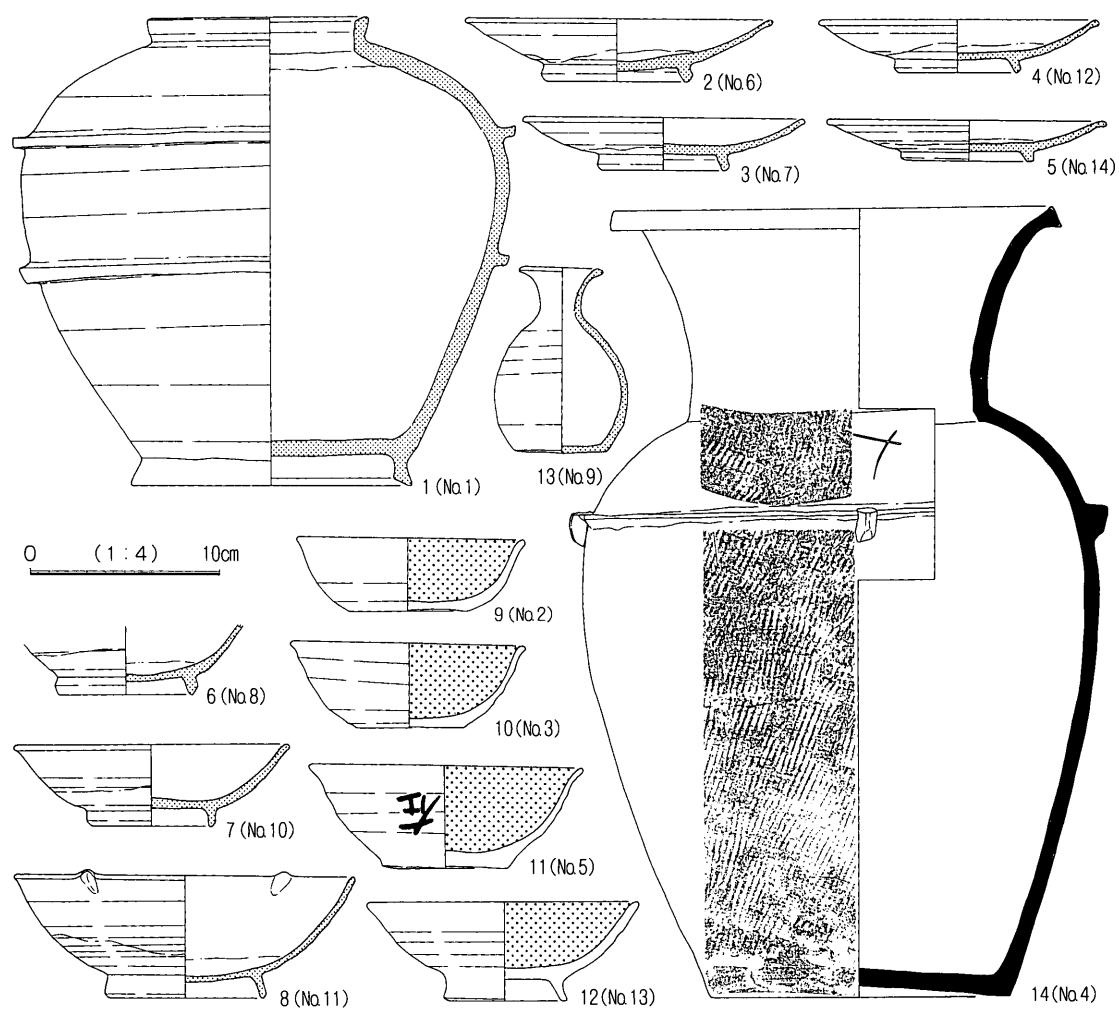
出土遺物には灰釉陶器では短頸壺1点（第10図1）、皿4点（第10図2～5）、碗3点（第10図6～8）、小型壺1点（第10図13）があり、その他に土師器の坏3点（第10図9～11）と碗1点（第10図12）、須恵器四耳壺1点（第10図14）がある。

1は肩部と胴部にそれぞれ1本ずつの突帯がめぐらされた突帯付短頸壺である。口縁部は短く直立し、底部には高台を持つ。肩部から下部突帯まで刷毛による釉薬が施されており上部には自然釉も付着する。内面は指でナデたように器面の凹凸が著しい。

灰釉陶器の皿と碗は内外面ともに刷毛により釉薬が塗布され、中には自然釉が付着しているものも見られる。8は輪花碗となる。13の小型壺は5号畦畔で出土した小型壺（第9図15）と大きさや形態がほとんど一緒である。土師器坏及び碗はそれぞれ内面が黒色処理されている。11には「在」の墨書が見られ、5号畦畔で出土した墨書と同様に逆位で同じ文字が書かれている。14は肩部に突帯をめぐらし4箇所につき突起を持った須恵器の四耳壺で、肩部には「×」の線刻がある。



第9图 5号畦畔出土遺物実測図 (1:4)



第10图 8号畦畔出土遺物実測図 (1:4)

出土遺物観察表

番号	器種	法		量 (cm)		遺存状態	外形・調整・文様		備考		
		口縁部	胴部	底部	器高		外面	内面			
5号畦畔 (第9図)											
1	小型碗	10.8		5.3	3.5	完形	ロクロナデ	施釉：刷毛がけ	ロクロナデ	施釉：刷毛がけ	No.1
2	小型碗	10.8		5.1	3.6	接合完形	ロクロナデ	施釉：刷毛がけ	ロクロナデ	施釉：刷毛がけ	No.12
3	皿	16.7		7.5	3.2	接合完形	ロクロナデ	施釉：刷毛がけ	ロクロナデ	施釉：刷毛がけ	No.2
4	皿	15.3		6.8	3.0	完形	ロクロナデ	施釉：刷毛がけ	ロクロナデ	自然釉付着	No.3
5	皿	18.0		8.4	3.4	完形	ロクロナデ	施釉：刷毛がけ	ロクロナデ	施釉：刷毛がけ	No.5
6	皿	14.7		6.7	3.0	完形	ロクロナデ	施釉：刷毛がけ	ロクロナデ	施釉：刷毛がけ 自然釉付着	No.8
7	皿	15.0		6.5	3.0	完形	ロクロナデ	施釉：刷毛がけ	ロクロナデ	施釉：刷毛がけ	No.9
8	皿	17.1		7.3	3.6	接合完形	ロクロナデ	施釉：刷毛がけ	ロクロナデ	施釉：刷毛がけ	No.10・16
9	皿	14.5		6.5	2.3	完形	ロクロナデ	施釉：刷毛がけ	ロクロナデ	施釉：刷毛がけ	No.11
10	皿	17.8		7.4	3.7	完形	ロクロナデ	施釉：刷毛がけ	ロクロナデ	施釉：刷毛がけ	No.14
11	碗	17.5		7.5	5.5	完形	ロクロナデ	施釉：刷毛がけ	ロクロナデ	施釉：刷毛がけ 自然釉付着	No.4
12	碗	14.3		6.6	4.9	完形	ロクロナデ	施釉：刷毛がけ	ロクロナデ	施釉：刷毛がけ 自然釉付着	No.7
13	碗	13.8		6.2	5.5	接合ほぼ完形	ロクロナデ	施釉：刷毛がけ 輪花碗	ロクロナデ	施釉：刷毛がけ	No.15
14	坏	15.0		6.5	5.0	2/3遺存	ロクロナデ	墨書「在」底部：糸切り	黒色処理	ミガキ	No.17
15	小型壺	4.6	7.2	5.0	9.3	完形	ロクロナデ	自然釉付着 底部：糸切り	ロクロナデ	口縁部に自然釉付着	No.6
16	長頸壺		16.5	8.7	24.2	口縁部欠損	ロクロナデ	自然釉付着	ロクロナデ	口縁部付近に自然釉付着	No.13
8号畦畔 (第10図)											
1	短頸壺	11.7	25.8	14.8	24.3	完形	ロクロナデ	貼り付け突起 2本 施釉：刷毛がけ 自然釉付着	ロクロナデ	ユビナデ	No.1
2	皿	16.3		7.2	3.3	接合完形	ロクロナデ	施釉：刷毛がけ	ロクロナデ	施釉：刷毛がけ	No.6
3	皿	14.9		6.3	2.8	ほぼ完形	ロクロナデ	施釉：刷毛がけ	ロクロナデ	自然釉付着	No.7
4	皿	14.8		6.2	2.7	完形	ロクロナデ	施釉：刷毛がけ	ロクロナデ	施釉：刷毛がけ	No.12
5	皿	14.8		6.2	2.1	接合ほぼ完形	ロクロナデ	施釉：刷毛がけ	ロクロナデ	施釉：刷毛がけ	No.14
6	碗			7.0	3.7	口縁部欠損	ロクロナデ	施釉：刷毛がけ	ロクロナデ	施釉：刷毛がけ	No.8
7	碗	14.5		6.2	4.2	完形	ロクロナデ	施釉：刷毛がけ	ロクロナデ	自然釉付着	No.10
8	碗	18.0		8.0	6.8	接合ほぼ完形	ロクロナデ	施釉：刷毛がけ 輪花碗	ロクロナデ	施釉：刷毛がけ	No.11
9	坏	12.1		6.2	3.9	接合完形	ロクロナデ	底部：糸切り	黒色処理	ミガキ	No.2
10	坏	12.4		5.7	4.6	接合完形	ロクロナデ	底部：糸切り	黒色処理	ミガキ	No.3
11	坏	14.5		6.7	5.5	接合完形	ロクロナデ	墨書「在」底部：糸切り	黒色処理	ミガキ	No.5
12	碗	14.4		6.6	5.2	完形	ロクロナデ		黒色処理	ミガキ	No.13
13	小型壺	4.5	7.1	4.9	9.7	完形	ロクロナデ	自然釉付着 (剥落多) 底部：糸切り	ロクロナデ	口縁部に自然釉付着	No.9
14	四耳壺	23.2	27.2	15.8	41.5	完形	ナデ	肩部～底部：タタキ 肩部に「×」線刻	ナデ		No.4



5号畦畔水口  
検出状況と6  
号畦畔の分岐



5号畦畔  
遺物出土状況



8号畦畔  
遺物出土状況

報告書抄録

ふりがな	へいせいにじゅうねんど ちくましまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ							
書名	平成20年度 千曲市埋蔵文化財調査報告書							
副書名								
編著者名	寺島孝典・小野紀男							
編集機関	千曲市教育委員会生涯学習文化課文化財係							
所在地	〒389-0892 長野県千曲市大字戸倉2388番地 TEL 026-275-0004							
発行年月日	2010年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おしまいせき 小島遺跡	ながのけん 長野県 ちくましおおあぎおしま 千曲市大字小島 2811番地4 ほか	20218	206	36° 31' 50"	138° 07' 36"	20090119 } 20090216	330㎡	道路改良
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
小島遺跡	集落跡	弥生時代 } 中世	溝跡 5基 土坑 3基 井戸跡 1基 不明遺構 1基 ピット 14基	弥生時代土器 古墳時代土器 平安時代土器 中世土器 陶磁器 五輪塔 宝篋印塔 石臼		中世溝跡から廃棄されたと見られる多くの石塔群とともに陶磁器や内耳鍋などが出土した		

平成20年度 千曲市埋蔵文化財調査報告書

発行日 平成22年3月31日  
 発行 千曲市教育委員会  
 〒389-0892 長野県千曲市大字戸倉2388番地  
 電話 026-275-0004  
 印刷 信毎書籍印刷株式会社  
 〒381-0037 長野県長野市西和田1-30-3  
 電話 026-243-2105

